

実用新案公報

昭53-1708

⑬Int.C1²
B 62 M 3/04//
B 62 K 19/34

識別記号 ⑭日本分類
81 D 03
81 D 04

厅内整理番号 ⑮公告
6774-36
6774-36

(全2頁)

1

2

⑯自転車用クランクとハンガー

⑰実願 昭49-78847
⑲出願 昭49(1974)7月3日
公開 昭51-7855
⑳昭51(1976)1月21日
㉑考案者 吉田稔
㉒出願人 吉田稔
八尾市南龜井町1の3の41
同 株式会社前畠鉄工所
大阪市東成区東今里3の9の15
同 有限公司ハナビシギヤ製作所
東大阪市足代北1の60
㉓代理人 弁理士 中島信一 外1名

㉔実用新案登録請求の範囲

自転車用クランク1の基部1'にハンガーシャフト2の端部2'を嵌合する嵌合孔3を設け、この嵌合孔3の孔縁にかしめ代4を形成する一方、ハンガーシャフト2の端部2'には、上記嵌合孔3の孔縁の上記かしめ代4のかしめ付けにより閉鎖される周溝aまたは突縁b等の段部5を設け、前記クランク1に前記ハンガーシャフト2を嵌合してかしめ付けることにより一体に連結した自転車用クランクとハンガー。

考案の詳細な説明

この考案は自転車のクランクとハンガーとの連結構造の改良に関する。

通常の自転車のクランクとハンガーは、その嵌合部にコツタまたは止めねじを嵌合部の直交方向にさし込んで一体に連結されている。したがつてその嵌合部に対する孔あけ加工が必要であり、かつ、コツタ、ねじ等の締結部品の露呈を蔽うカバーの取付けなどを必要としていた。

本考案は、上記のような締結部品を用いずに、自転車のクランクとハンガーとを連結したものである。

以下に、本考案の実施例を図面について説明する。

図中、1はクランク、2はハンガーシャフト、3は、上記シャフト2の端部2'を嵌合するために、5 クランク1の基部1'の内端面から形成した嵌合孔、4は嵌合孔3の孔縁を同縁に沿つて三角形に切除することにより形成したかしめ代、5は、前記ハンガーシャフト2の端部2'を上記嵌合孔3の中に挿入したときに、同孔3の孔縁と一致する位置に10 設けた段部である。この段部5の形成は、第1図に示すように、シャフト2に周溝aを設けることによつて行なう場合と、同第2図に示すようにフランジ状の突縁bを設ける場合がある。

上記のようにして嵌合部を形成したクランク1 15 とハンガーシャフト2は、嵌合孔3に端部2'を嵌合した後、かしめることにより、かしめ代4が周溝aまたは突縁bの形成する段部5に嵌合部の外側から入り込んで、クランク1とハンガー2とが一体に固定される。

なお、図中6はシャフト端部2'に形成したセレーション継手、7は上記かしめ操作と同時にクランク1に固定するギヤである。

以上のようにしてクランク1とハンガーシャフト2とを直接のかしめ付けによつて一体に連結した25 本考案は、ねじやコツタの使用なしでその連結が行なわれるので、製作上、組立上にきわめて有利であるとともに、クランクの基部外周に突起物がなくズボンの裾などがからみ付くような危険がない構造に仕上がる。

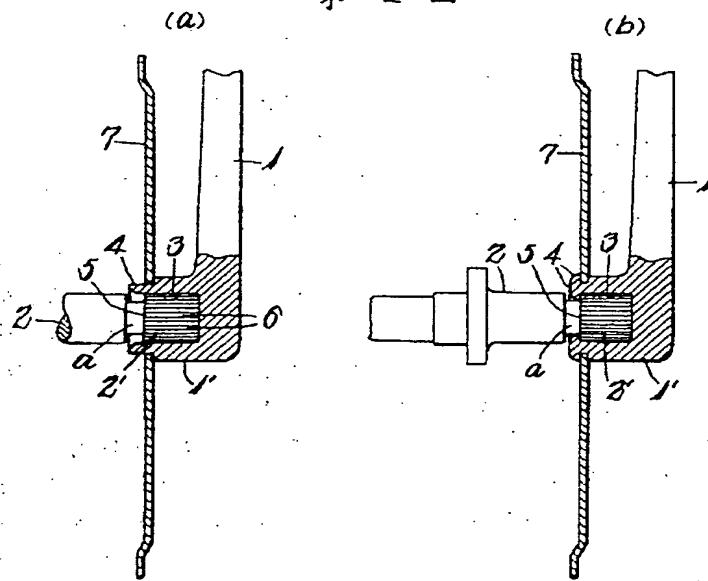
30 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示すもので、第1図aはその態様のかしめ前を示し、同図bはかしめ後を示す一部切欠立面図、第2図a, bは別の態様を第1図と同様にかしめ前とかしめ後とに分けて35 示す一部切欠立面図である。

1…クランク、1'…クランク基部、2…ハンガーシャフト、2'…シャフト端部、3…嵌合孔、4

…かしめ代、5…段部、a…周溝、b…突様、6…セレーフション継手、7…ギヤ。

第1図



第2図

